

(公開用)

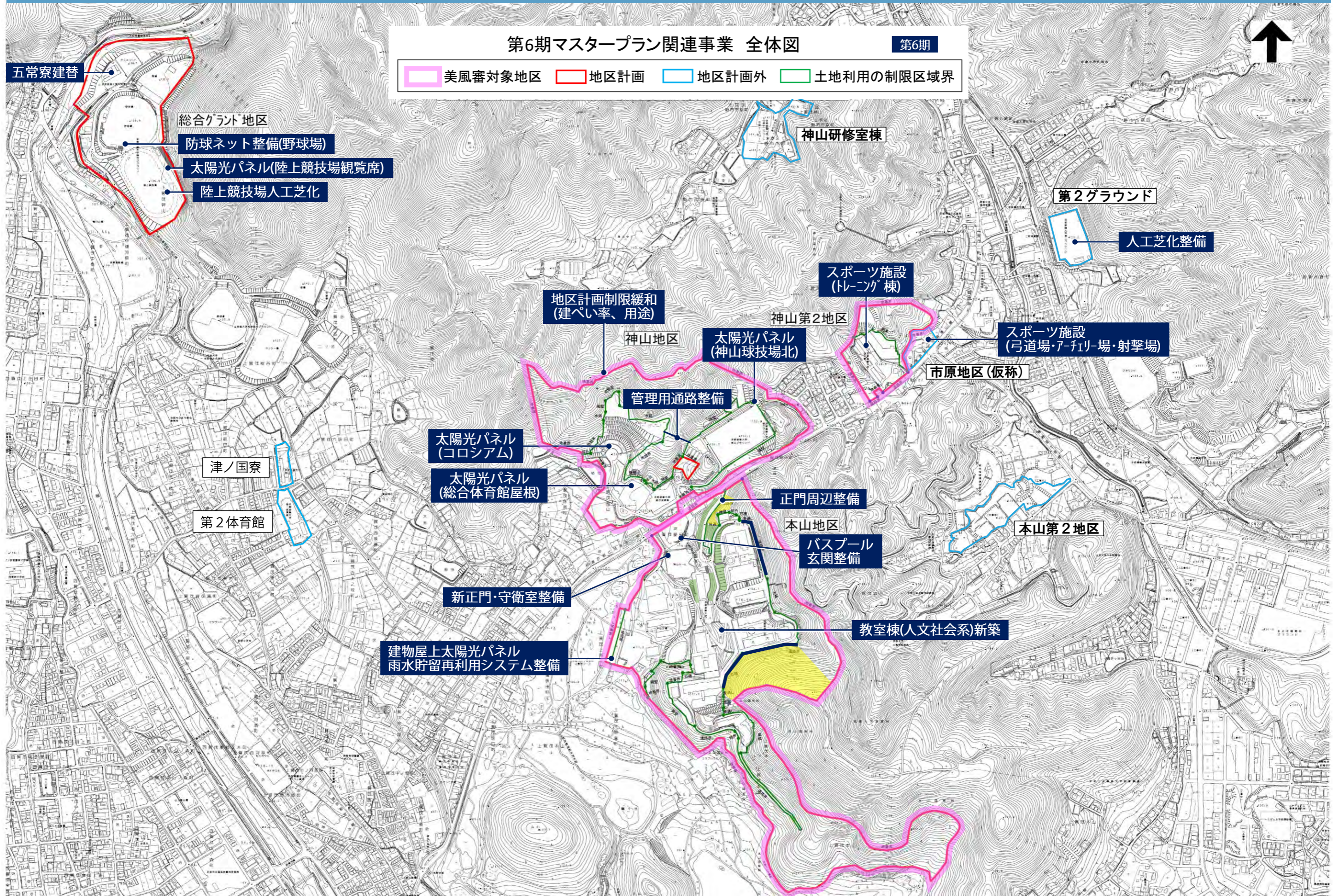
 京都産業大学 第6期マスタープラン

2024(令和6)年4月

目次

1.第6期マスタープラン関連事業全体図 1	5.地区計画について 8
2.これまでのキャンパス整備と今後 2	(1)地区計画の範囲 8
(1)第1期から第4期までの整備概要① 2	(2)地区計画の内容 9
(2)第1期から第4期までの整備概要② 3	6.本山地区の整備計画 (1)整備シミュレーション 10
(3)第5期と第6期 4	7.神山地区の整備計画 (1)整備シミュレーション 11
3.キャンパスの現状 5	8.デザインコードについて 12
4.キャンパスの法規制： 6	9.市原地区（仮称）の整備計画 13
(1)用途地域・高度地区の状況 6	10.総合グラウンド地区の整備計画 14
(2)風致地区等 7	11.整備計画のスケジュール 15

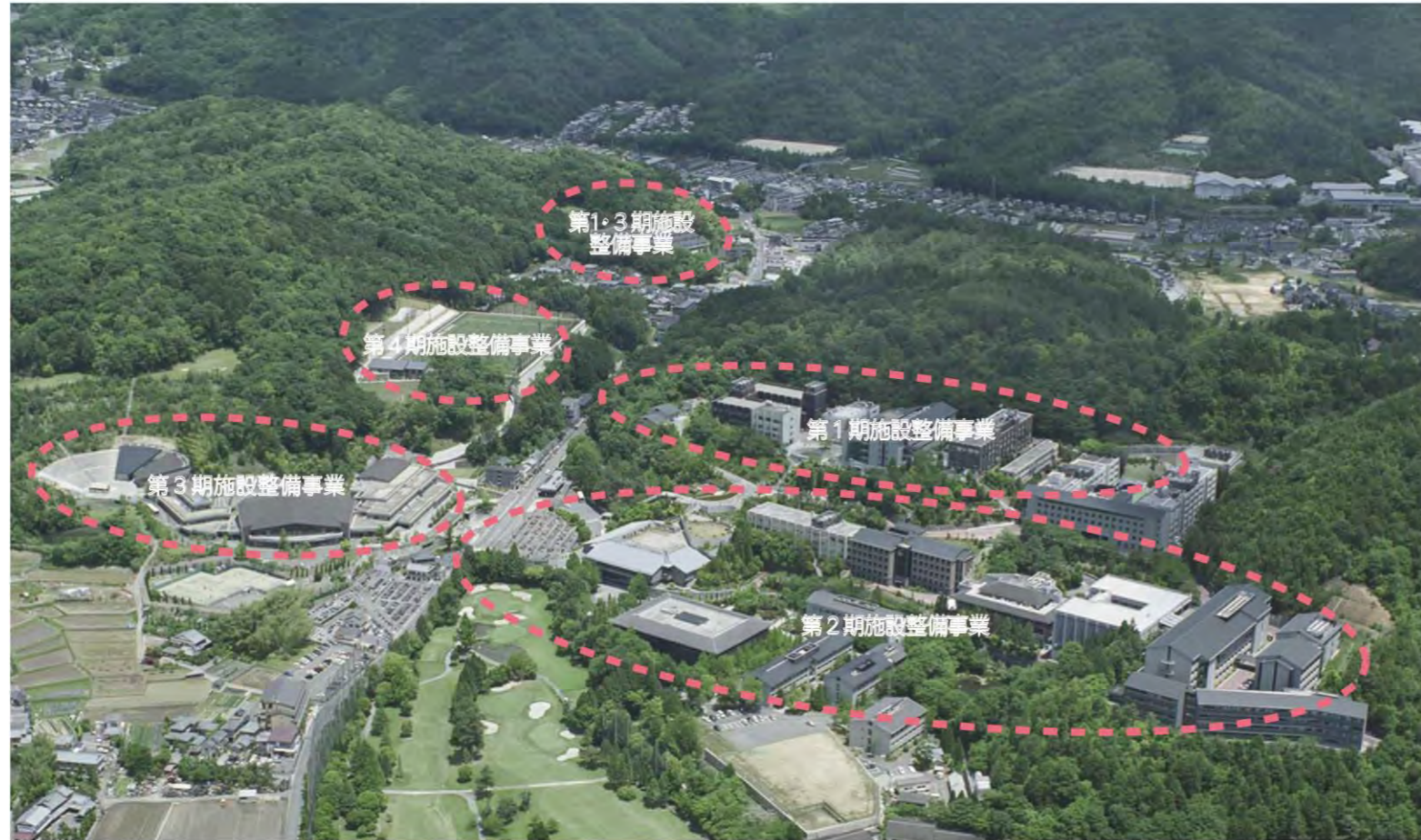
1.第6期マスタープラン関連事業 全体図



2.これまでのキャンパス整備と今後：(1)第1期から第4期までの整備概要①

<これまでのキャンパス整備の流れ>

本学開学以来これまでの4期に渡るキャンパス整備事業では「学園庭園化構想（後の「神山自然学園構想」）の理念に基づき、第1期・第2期キャンパス整備事業において本山地区一帯の教学ゾーン、研究・実験ゾーンの整備を、第3期キャンパス事業においては神山地区一帯の体育・課外活動ゾーンの整備を、第4期キャンパス整備事業においては第3グラウンド（神山球技場）をはじめとした教育、課外活動環境の整備を行いました。開学以来、大学創設事業として進めてきた第1期から4期までのキャンパス整備事業は、平成19(2007)年度をもって終了しました。



<景観形成と森林保存>

本学開学にあたる昭和40年代には、初期の施設整備の為多くの土地が切り拓かれ、広大な自然林を伐採しました。その結果、上賀茂神社のご神体である「神山」の麓にも関らず周辺は荒涼とし、必ずしも周囲の景観に相応しい状態とは言えませんでした。しかし、これまでの施設建設毎に逐次行ってきた植林の成果もあり、キャンパスはようやく自然林と見紛う程の植栽に覆われることとなりました。



開学当初（1966年撮影）



第4期完了時（2007年）

第1期から第4期までの整備概要①

■ これまでのキャンパス整備の流れ

○ 第1期・第2期整備では本山地区における教学・研究・実験ゾーンの整備を、第3期整備では神山地区における体育・課外ゾーンの整備を、第4期整備では第3グラウンド（神山球技場）をはじめとする教育、課外活動環境の整備を行いました。

■ 景観形成と森林保存

○ 既存森林の保全と上賀茂神社、神山からの景観を損なわない計画



第1期施設整備事業時における
キャンパス景観

2.これまでのキャンパス整備と今後：(2)第1期から第4期までの整備概要②

第1期キャンパス整備の概要(昭和40(1965)年-昭和54(1979)年)

景観、環境等の規制が現在ほど厳しい時代ではなかったため、創設時の本館、各教室棟、研究棟、グラウンド等は、一般的な開発事業として整備を行いました。当時は、キャンパス周辺に粗々しい造成面が露出した状態でしたが、大学創設後設置された緑化委員会による建物周辺や法面への樹木の植栽によって、現在では自然林と見間違えうばかりの自然景観が生まれることになりました。



本山本部地区の整備(教学ゾーン)

- ・総合グラウンド
- ・五常寮
- ・第2グラウンド
- ・第2体育館、神山寮、津の国寮、追分寮
- ・第1研究室棟

1965

第2期キャンパス整備の概要(昭和55(1980)年-平成4(1992)年)

開学のあと、しばらくは量的拡大に対応するため建築ラッシュが続きましたが、第1期キャンパス整備が終わる頃になるとそれも小休止に入りました。キャンパスは当初の敷地より西へ、南へ伸びることとなりました。昭和50年代に入ると、「学園庭園化構想(後の「神山自然学園構想」)」の具現化として教学面の充実に向け中央図書館、研究・実験室棟、神山ホール等を建設しました。またキャンパス全体の環境整備については「観山庭」に代表されるランドスケープ(植栽を含む全体的な造園・環境)整備を行いました。



本山本部地区の整備(研究・実験ゾーン)

- ・中央図書館
- ・第1, 第2実験室棟(第1実験室棟増築)
- ・第2研究室棟
- ・神山ホール
- ・9号館

第3期キャンパス整備の概要(平成5(1993)年-平成11(1999)年)

大学規模拡大に伴い、敷地の拡大及び課外活動施設の充実が必要となりました。本山地区では十分な敷地を求めることが不可能であったため別の場所での整備も考えましたが、あくまでも「課外活動は正課と両輪をなす」という理念に基づき、大学機能一点化計画を見据え隣接する神山地区を中心に整備を進めました。第3期計画の骨格をなす整備は、体育館、練習室等の運動施設、体育系の研究・実験室、体育系・文化系クラブの部室、文化系の練習室等の建設と、多くの自然林を有する環境整備であり、事業内容は第2キャンパス建設に近いものとなりました。その後、特高電気設備の完成、キャンパス情報拠点となる10号館の完成、11号館・新8号館の完成などによって本山地区の施設整備も更に充実し、「学園庭園化構想(後の「神山自然学園構想」)」の骨格が形成できました。



神山地区の整備(体育・課外ゾーン)

- ・総合体育館、課外活動棟
- ・第3研究室棟、神山研究室棟
- ・市原テニスコート
- ・新8号館
- ・国際交流会館
- ・10号館、11号館

第4期キャンパス整備の概要(平成12(2000)年-平成19(2007)年)

第3期計画から継続する教室、研究室の不足を解消するための施設整備(第4研究室棟、12号館など)と並行して、開学当初に建設した建物の建替え・改修・整備といったリニューアルを実施する第4期事業を平成12(2002)年度から開始しました。平成16(2004)年に竣工した新5号館については、開学当初に建設した建物を撤去し、同じ場所に規模・機能を一新して建替える最初の事例です。また、国有林の払い下げを受け開発を進めてきた神山キャンパス第3グラウンド(現「神山球技場」)・管理棟が平成19(2007)年2月に完成し、同時に進めていた本山学生ホール移転施設、屋内野球練習場の新築と併せてここに第4期施設整備計画が完了することとなりました。第4期施設整備計画により、文武双方の施設は更に充実し、大学創設から進めてきた大学施設の基盤整備は一応の完結を迎えました。



生活、教育基盤・環境の整備、課外活動環境の整備

- ・松の浦セミナーハウス(滋賀県大津市荒川)
- ・総合グラウンド管理棟他
- ・12号館、新5号館、13号館(ロースクール棟)
- ・第3グラウンド(神山球技場)
- ・同上管理棟
- ・第4研究室棟

2007

2.これまでのキャンパス整備と今後：(3)第5期と第6期

第5期キャンパス整備の概要（平成20<2008>年～令和5<2023>年）

平成27(2015)年の開学50周年に向けた第5期キャンパス整備計画では、「神山自然学園構想」に基づいた、教育・研究・課外活動施設の自然環境との調和と機能の分散と集約を踏まえた再配置と高機能化により、キャンパスアメニティの充実を図りました。加えて、南海トラフ大地震への備えとして、耐震化率100%の達成と特定天井への改修を完了し、万全の備えとしました。

一方ソフトの面においては、人文・社会・自然科学の分野に拘らず、社会のニーズに応えられる大学として、新学部の開設や学科改編を実施しました。学生総数15,000人を超える学生が、日々の研鑽に励めるキャンパス環境をソフト、ハードの両面からサポートできる環境を整備しました。今後は、更にカーボン・ニュートラルの推進など、自然環境に配慮したキャンパスアメニティを目指していきます。



老朽化施設の更新，耐震化100%の実現，教育研究基盤の整備

【新築・改築など】

- ・14号館
- ・15号館
- ・16号館
- ・第5研究室棟
- ・むすびわざ館（壬生校地）
- ・神山寮
- ・雄飛館
- ・万有館
- ・サギタリウス館
- ・本山寮（追分寮，葵寮の建替え）
- ・津の国寮
- ・温室棟
- ・茶室
- ・遠望館
- ・天地館
- ・真理館
- ・第6研究室棟
- ・本館
- ・第3体育館

【改修】

- ・神山ホール（特定天井）
- ・6号館(大教室棟)（特定天井）
- ・第2体育館（耐震改修）
- ・神山研修室棟（耐震改修）
- ・上賀茂総合研究館（耐震改修）
- ・追分寮（耐震改修）
- ・厩舎（耐震改修）
- ・4号館（用途変更大規模リニューアル）
- ・神山多目的練習場（市原第一倉庫から用途変更）

【学部新設・改組改編】

- ・コンピュータ理工学部設置
- ・総合生命科学部設置
- ・外国語学部（学科再編）
- ・文化学部「京大文化学科」増設
- ・理学部に「宇宙物理・気象学科」増設
- ・現代社会学部設置
- ・情報理工学部設置(コンピュータ理工学部改組)
- ・経営学部 学科再編（マネジメント学科の1学科体制）
- ・国際関係学部設置
- ・生命科学部設置(総合生命科学部改組)

2008

2023

第6期キャンパス整備の概要（令和6<2024>年～令和15<2033>年）

■大学の使命・目的：「将来の社会を担って立つ人材の育成」

■大学づくりの姿勢（スローガン）

◇大学像 「むすんで，うみだす。」

「学問」と社会，企業，自然をむすぶ，「京都」と日本・世界の諸地域をむすぶ，「むすぶ人」をうみだす。

◇育成すべき学生像 「むすぶ人」

専門知識・技術や幅広い教養をもとに，「人」や「地域」をむすびつけ，グローバルに活動し，人類の平和と幸福に寄与・貢献する人材

<文理融合の学びが知的好奇心を刺激する>

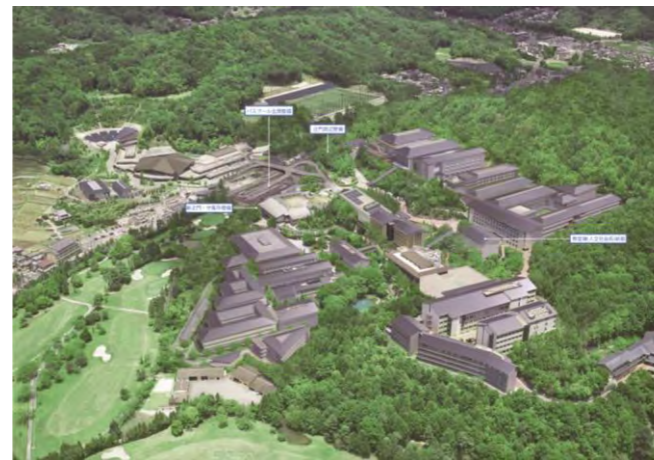
京都産業大学で学ぶ醍醐味ともいえるのが，教養が身に付く「共通教育科目」です。日本最大規模のワンキャンパスの特長を最大限に生かし，広い視野を養う「人間科学教育科目」や10言語から選択可能な「外国語教育科目」など，興味・関心を駆り立てるカリキュラムを展開しています。

<日本を代表する先進的な産学連携教育>

日本の大学のキャリア教育をリードしてきた京都産業大学は，企業や行政機関と提携して課題解決に取り組む授業やインターンシップなど，実社会において力を付けるカリキュラムが充実しており，日々の学びの中で社会で活躍する素養が身に付きます。

<就職に強い京都産業大学といわれる充実した支援>

「就職に強い京都産業大学」として伝統的に高い就職率を誇り，社会で活躍できる卒業生を輩出してきました。その背景には，専任スタッフによる“face to face”の個人面談や先輩が後輩のアドバイザーを務める制度など，大学がワンチームとなって学生の就職活動を応援する，きめ細かなサポート体制があります。



<海外でも国内でも国際感覚が身に付く>

在学生の10人に1人が海外留学する京都産業大学。全ての学部で，目的や条件に応じて選べる多彩な留学プログラムと学内で留学生と触れ合う豊富な機会を用意しています。「世界とむすぶ」たくさんの経験を通じて，グローバルに活躍する力を養います。

<日々，切磋琢磨し学びを高められる場>

キャンパスには，学生の成長を促すためのさまざまな仕掛けがあります。学内に4つある「コモンズ」や図書館は，学生が自然と集まる「むすび場」。そこでは，文系と理系，異なる学部の多様な価値観が混ざり合い，ともに高め合う関係がうまれています。

<同じ目標に向かって育まれる絆>

スポーツや文化・芸術活動に打ち込んだり，イベント企画の活動の中で，これまでに見えなかった自身の個性や能力が発揮されることも。京都産業大学では，150を超える個性的なクラブ・サークルが活動しており，興味・関心に合わせて仲間とともに成長できます。

第6期キャンパス整備の概要

○ Society 5.0の実現に向けた「総合知による社会変革」のためのキャンパス整備

本学は将来の社会を担って立つ人材の育成を建学の精神としており，産学官が一体となって，教育研究機関としての機能を強化し，人文・社会・自然科学の厚みのある「知」の集積と融合を図り，あらゆる分野の知見を総合的に活用し「総合知」の創出・活用を図っていくことが極めて重要で，それを実現するためのキャンパス整備を行います。

○ カーボンニュートラルへの取り組み

本学は，カーボン・ニュートラルへの貢献に向けた基本方針を定め，2050年の脱炭素化社会の実現及び持続可能な社会の発展に貢献するため，積極的に環境問題への取り組みを進めます。それは，①グリーン（脱炭素化等）人材の育成，②環境問題改善に向けた教育研究の展開，③校地の省エネルギー化，脱炭素化の実現を行い，2030年までに本学のCO₂排出量の70%を削減します。

○ 安全安心対策の推進

本山本部キャンパス敷地は，2016年に土砂災害警戒区域に指定され，学生，教職員，本学で働くすべての方への安全性を向上させるため，2019年に土砂災害対策基本計画をまとめ，落石防護柵や高エネルギー吸収型土砂防止柵の設置整備を行っていきます。併せて，混雑するバスプール内の交通動線を整備し，安心安全なバスプール整備を行い，加えて本学の玄関として相応しい正門等の整備を行います。

○ スポーツ施設の充実と拡充

本学のスポーツ施設環境を充実し，学生のキャンパスライフの向上と高度な競技スポーツ選手の育成を兼ねた施設整備を図っています。また，不足する地域スポーツ環境への展開，避難施設への展開も視野に入れながら，スポーツ施設の充実・拡充を図っていきます。

2024

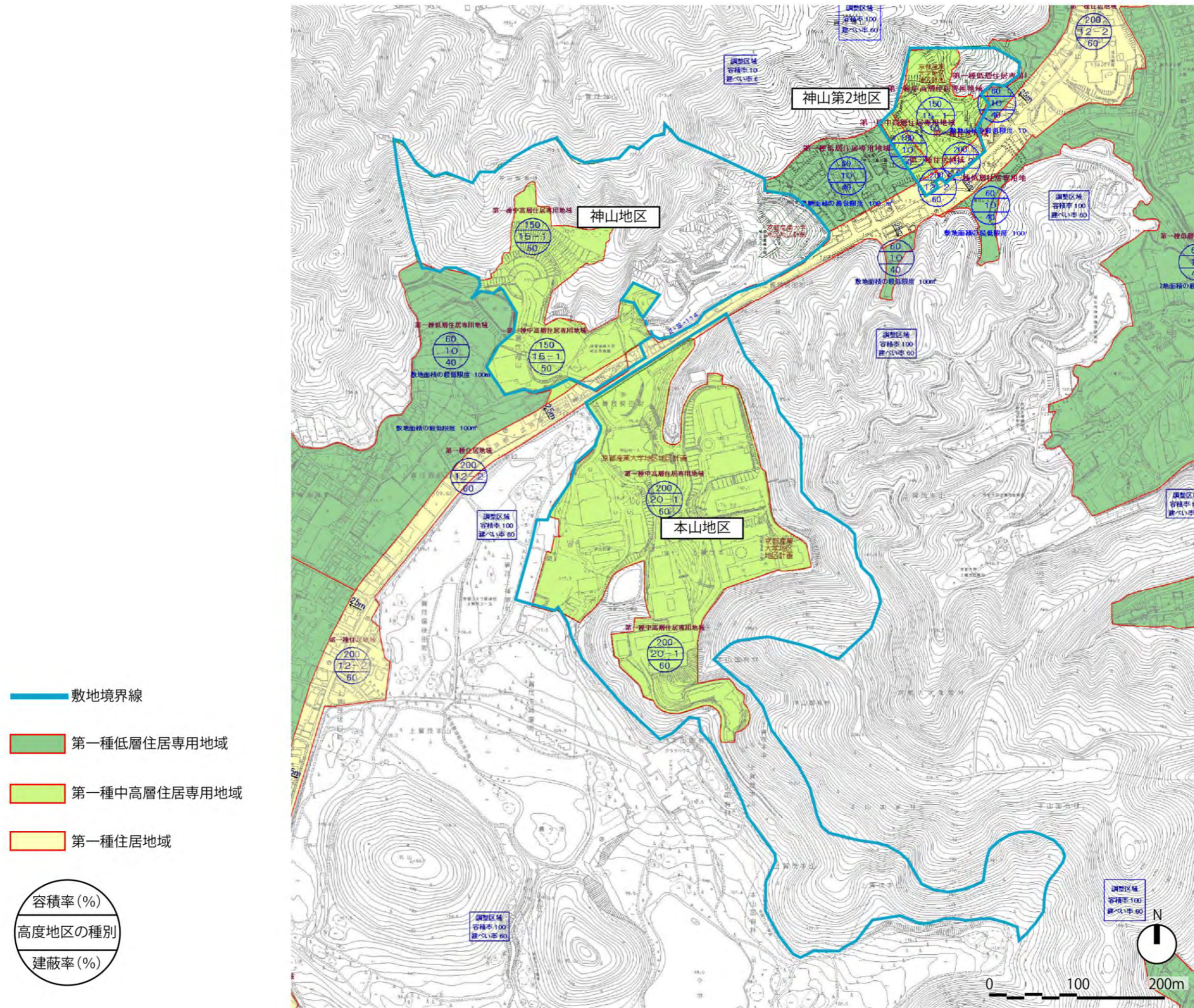
2033

3.キャンパスの現状

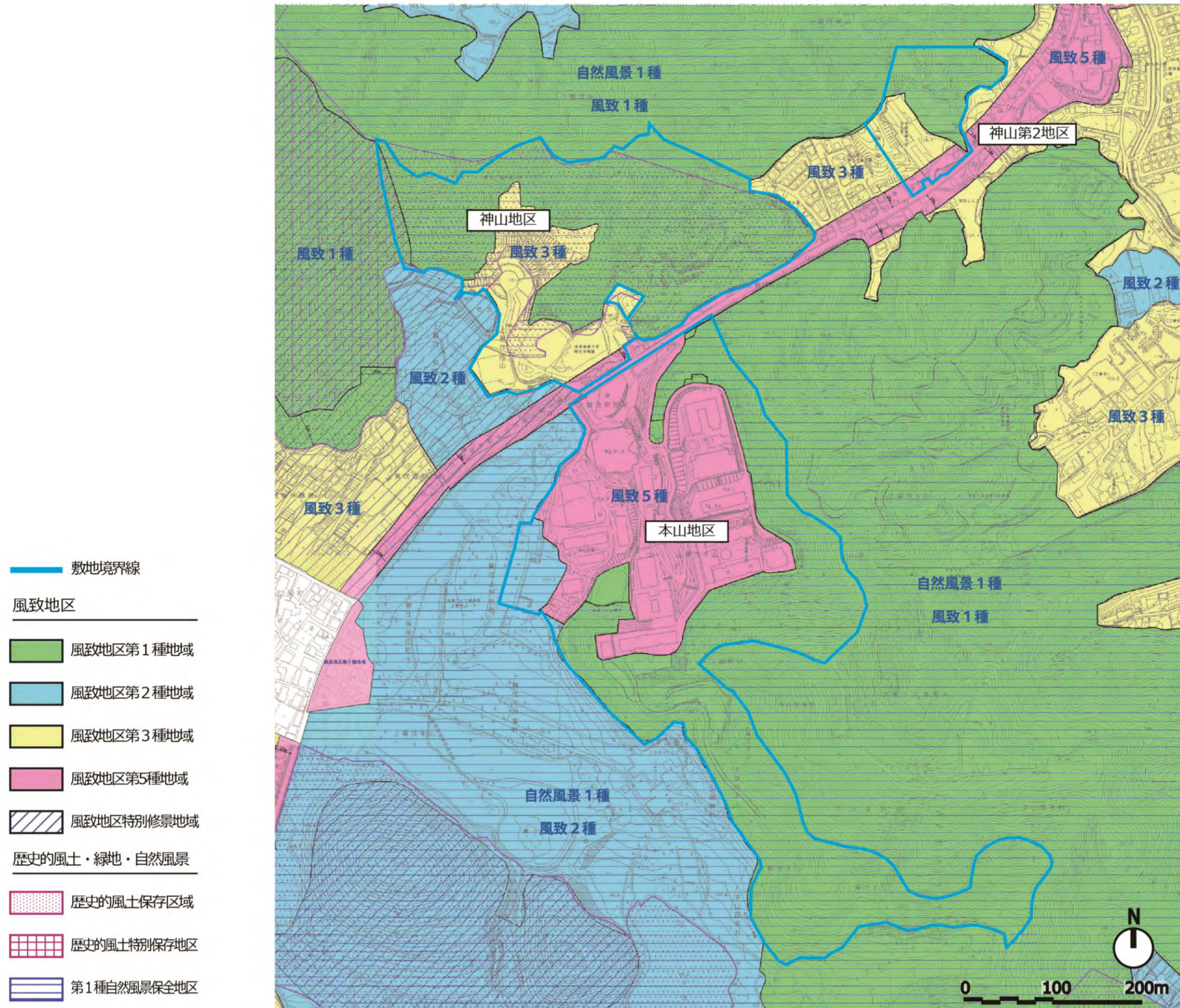


(2023年8月撮影)

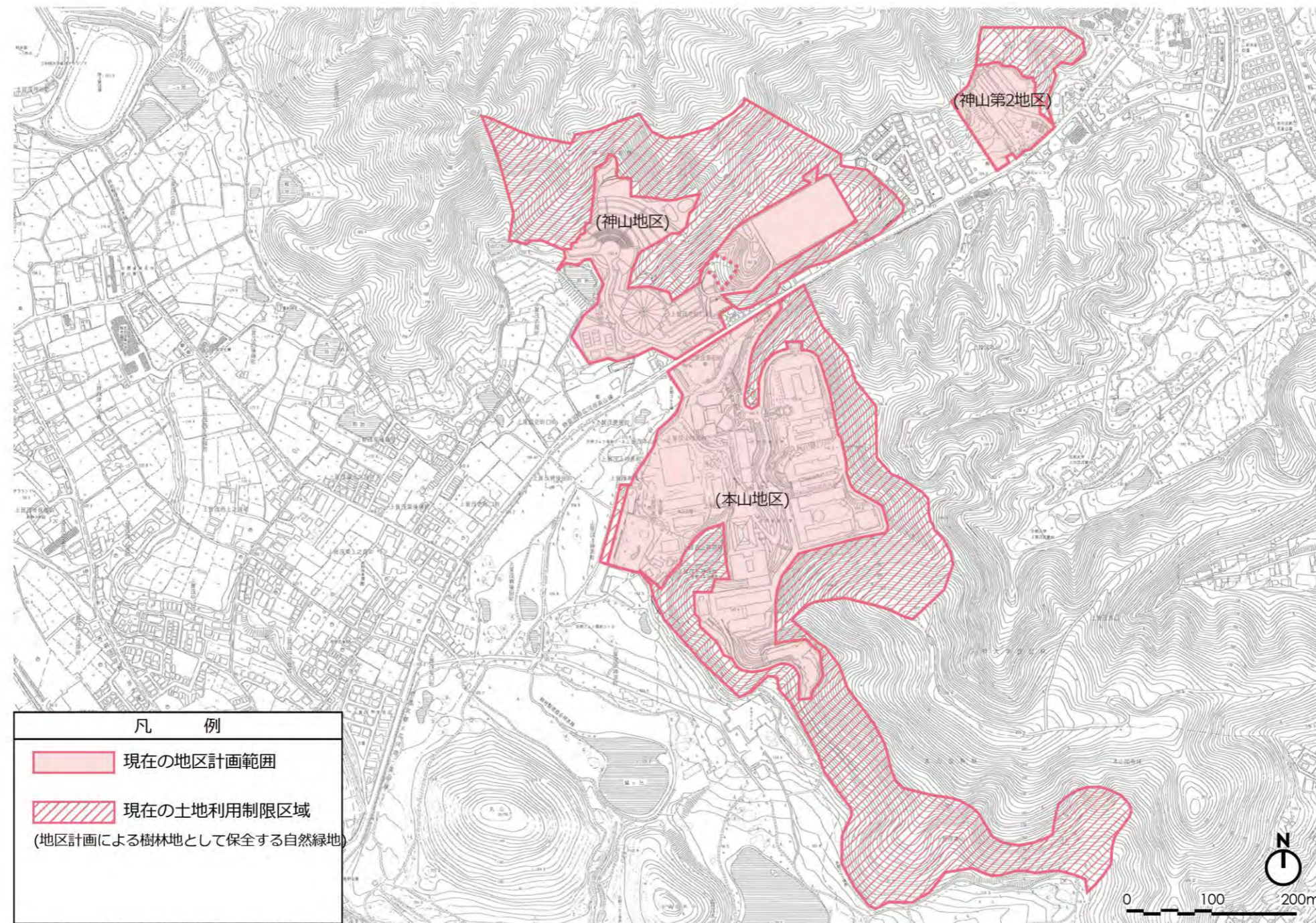
4.キャンパスの法規制：(1)用途地域・高度地区の状況



4.キャンパスの法規制：(2)風致地区等



5.地区計画について：(1)地区計画の範囲



地区計画変遷

昭和60 (1985) 年	京都市地区計画制定
平成 8 (1996) 年	神山地区 (約8.9ha) 地区計画導入
平成12 (2000) 年	本山地区 (約11.8ha) ,神山第2地区 (約1.7ha) ,総合グラウンド地区 (約8.2ha) 地区計画導入
平成15 (2003) 年	神山地区第3地区 (約5.9ha) 地区計画導入
平成20 (2008) 年	地区計画の変更

5.地区計画について：(2)地区計画の内容

京都都市計画（京都国際文化観光都市建設計画） 地区計画の変更（京都市決定）

都市計画京都産業大学地区地区計画を次のように変更する。

名称	京都産業大学地区地区計画	
位置	京都市北区上賀茂本山，上神原町，壱町口町，葵田町，神山及び左京区静市市原町の各一部	
面積	約 51.6ヘクタール	
区域の整備・開発及び保全に関する方針	地区計画の目標	当地区は、京都市街地北部の緑豊かな山麓部にあり、京都産業大学が、大学関連施設を集約している。総合大学としての多彩な機能を備えた当地区に対して地区計画を策定することにより、良好な教育・研究環境を確保するとともに周辺の自然環境と調和のとれた大学関連施設の誘導を図る。
	土地利用の方針	大学関連施設の整備と並行して敷地内の緑化を誘導するとともに、現存する森林の維持に努め、周辺環境と調和した土地利用を図る。
	建築物等の整備方針	建築物の用途を大学関連施設に限定することにより、用途の混在等による環境の悪化を防止すると同時に、建ぺい率、容積率、壁面の位置及びかさ又はさくの構造等に制限を加えることにより、周辺の住環境及び自然環境と調和した施設を誘導する。

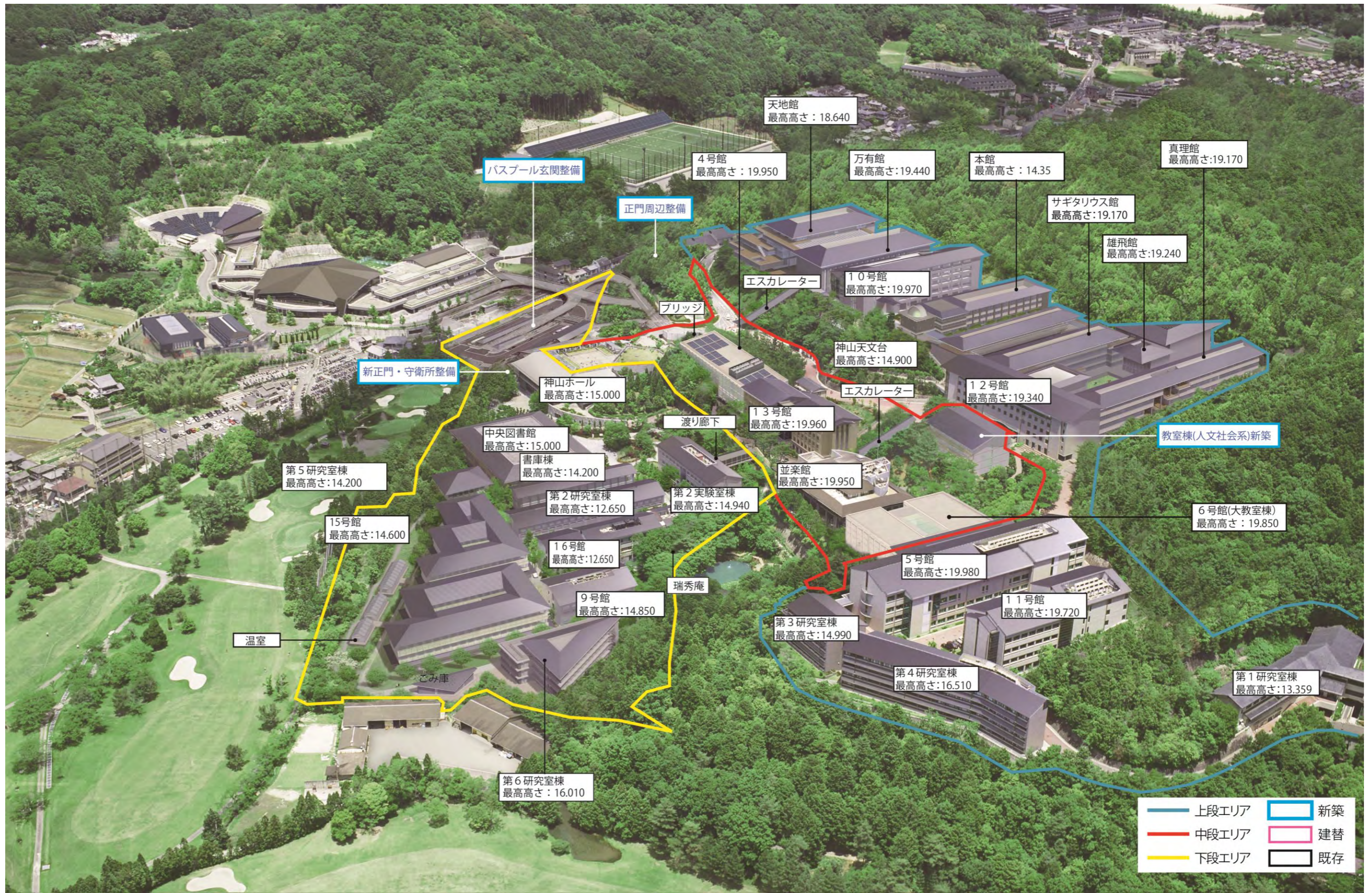
地区の区分	地区の名称	本山地区	神山地区	神山第2地区	総合ゾーン地区
		地区の面積	約 25.9 ヘクタール	約 14.8 ヘクタール	約 2.7 ヘクタール
建築物等に 関係する 事項 備考	建築物等の用途の制限	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 1 大学 2 前号に掲げる建築物に付属する建築物 3 バス停留所の上屋	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 1 大学 2 前号に掲げる建築物に付属する建築物	次の各号に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。 1 大学 2 寄宿舍 3 前各号に掲げる建築物に付属する建築物	
	建築物の容積率の最高限度	10分の6	10分の2	10分の5	
	建築物の建ぺい率の最高限度	10分の3	10分の1	10分の3	
	壁面の位置の制限	1 建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から府道京都広河原美山線までの距離の最低限度は10メートルとする。 2 建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地境界線（府道京都広河原美山線との敷地境界線を除く）までの距離の最低限度は5メートルとする。 守衛所、自転車置場又はバス停留所の上屋その他これらに類するもので地上階数が1のもの及び玄関ポーチその他これに類する建築物の部分については、壁面の位置の制限にかかわらず建築することができる。		建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から敷地境界線までの距離の最低限度は5メートルとする。	
	垣又はさくの構造の制限	敷地境界線に沿って垣又はさくを設置する場合には、可能な限り生垣等により緑化を推進することとする。			
	土地の利用に関する事項	計画図に表示する区域については、樹林地又は草地として保全する。			
	備考				

「区域は計画図表示のとおり」

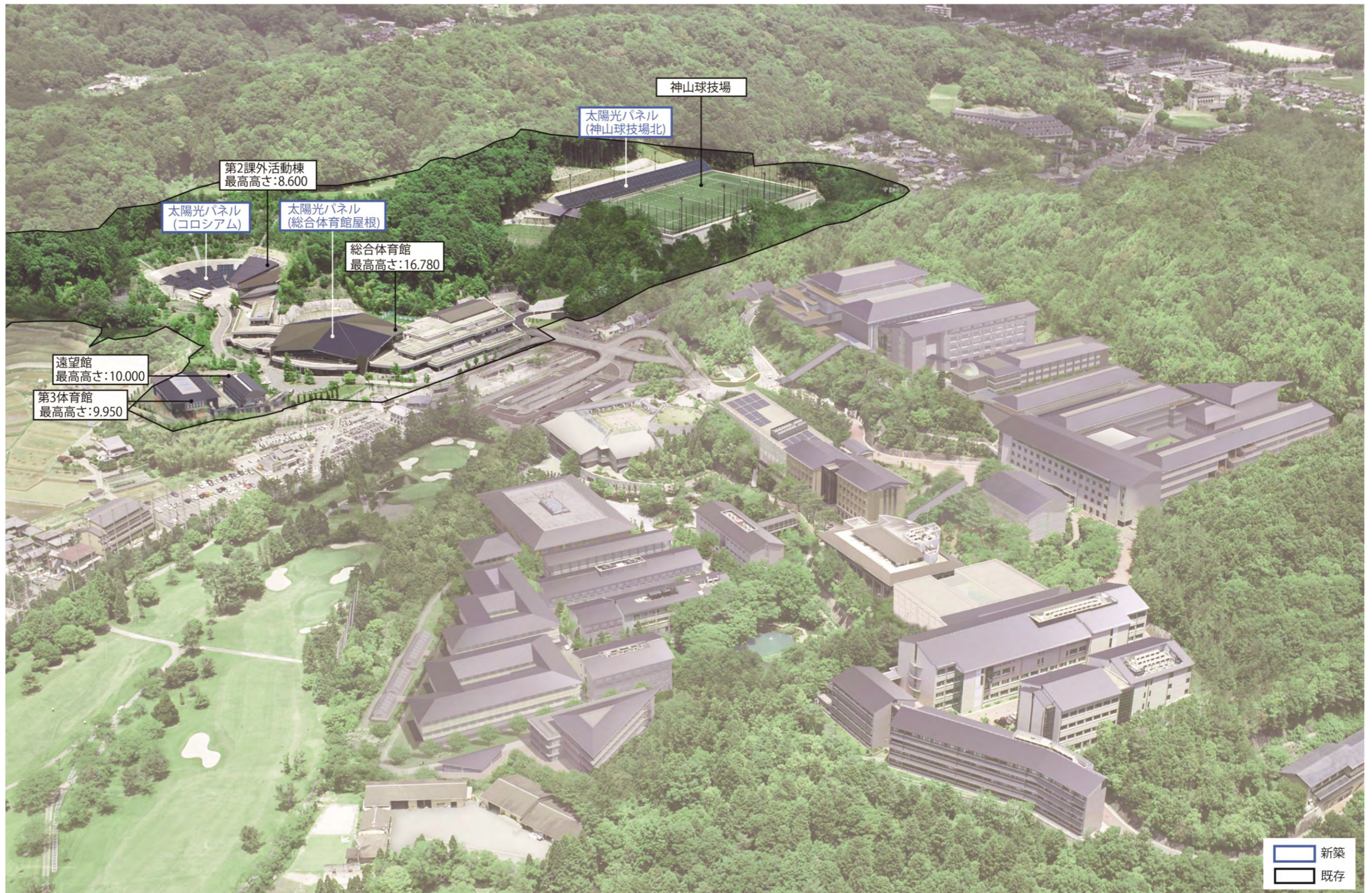
理由

本都市計画は、京都産業大学の施設が立地する地区において、地区計画を変更することにより、大学周辺の住環境と自然環境との調和のとれた市街地環境の形成を図りつつ、良好な教育・研究環境を備えた大学関連施設の誘導を図るものである。

6.本山地区の整備計画：(1)整備シミュレーション



7. 神山地区の整備計画：(1)整備シミュレーション



8.デザインコードについて

■建物外観デザインについて

マスタープランに沿って建替計画を行う中で、建物のデザインの基本方針を以下に定めます。

建物の外装仕上げや色彩を統一し、周囲の景観やキャンパスの全体イメージに調和・バランスさせることを基本方針とします。

外壁のデザインについては、学内の多くの校舎に使用されているレンガの風合い、質感を表現します。

レンガタイルや、サギタリウス館、天地館等の外壁に使用されているRC打放ランダム目地（底目地）を用いることで、既存の校舎のような表情を実現する計画とします。

屋根については、切妻屋根に比べ軒先の高さを低くみせる寄棟屋根を基本とし、既存校舎との調和を図ります。また、素材も同様に既存校舎と同じ金属板葺屋根とすることで、素材の統一感を図ります。

■外装仕上げ

・屋根(勾配屋根)

仕上材：金属板葺き 勾配：3.0～4.5/10 色彩：濃灰色(マンセル値：N2.0)

仕上材：アルミルーバー 勾配：3.0～4.5/10 色彩：濃灰色(マンセル値：N2.0)
(角型アルミ押出型材 100×60 @120程度)

・外壁

仕上材：レンガタイル 色彩：濃灰色(マンセル値：N2～4.5)

RC打放ランダム目地（底目地）含浸塗料仕上
色彩：薄灰色(マンセル値：N6～8)

(※レンガ風タイル，RC打放ランダム目地（底目地）含浸塗料仕上以外の素材を使用する際は、周囲の外壁，軒天等の素材との調和を考慮)



外壁：レンガ(既存15号棟)



RC打放ランダム目地仕上

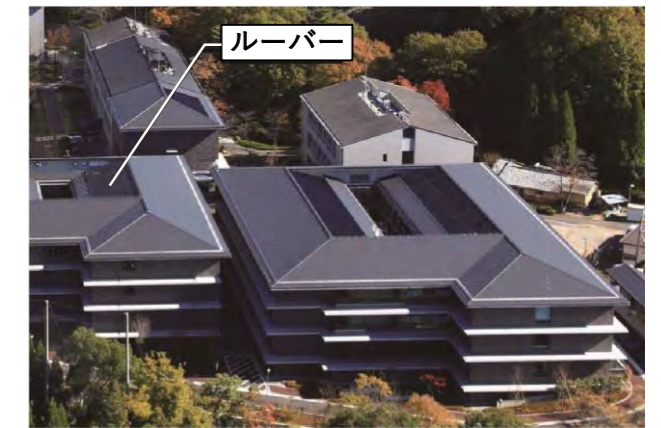
外壁：RC打放ランダム目地仕上
(サギタリウス館)



外装仕上げの様子 寄棟屋根：金属板葺き
外壁：レンガ(既存天文台)

■屋上室外機について

基本的に室外機は、周囲から見えないように、屋上部に配置する計画とします。場合によっては、室外機が外気に対して有効に吸排気が行えるよう、ルーバー等を設置する計画とします。



(既存14号館俯瞰写真)

■渡り廊下・ブリッジ等の屋根について

渡り廊下・ブリッジ等に屋根を設ける場合は、外観上の存在感を抑えるため、見つけを薄くする等の工夫を凝らし、また周囲の既存建物との調和を図ります。さらに、場合によってはガラス等の素材を用いることによって、棟同士が繋がって見えないように配慮します。

既存レンガの風合い、質感を表現したレンガタイル（本館での検討）



■既存レンガ壁の特徴

- ①フラット面と粗面の組み合わせ
- ②濃淡の異なるレンガの組み合わせ
- ③還元焼成ならではの斑や照り
- ④ずらして積むことで生まれる凹凸感と陰影感

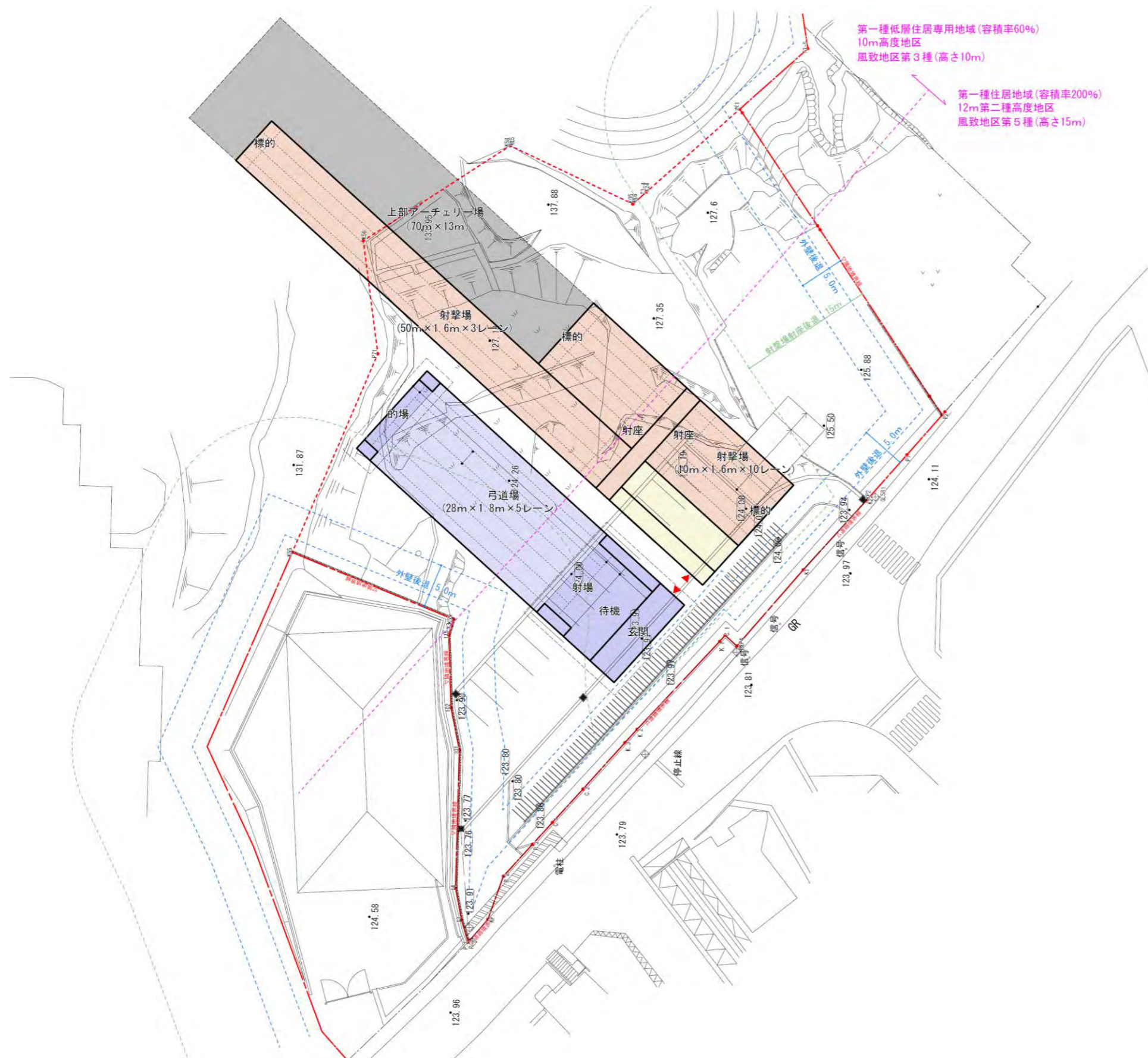
■既存レンガの風合いを表現するために

①②③に関しては、既存レンガを焼いている窯元でタイルを焼き、焼き方を追求することで、ほぼ同等のものを再現します。④に関してはt=15, 20, 25の厚みの違うタイルを組み合わせることで、厚みのある陰影感を再現します。

使用するタイルのサイズは、天文台のレンガサイズ320×65に合わせることで、外観の統一感を出します。

9.市原地区（仮称）の整備計画

■弓道場・アーチェリー場・射撃場



計画図 S=1:500 (A3)

10.総合グラウンド地区の整備計画



11. 整備計画のスケジュール

■2023年度～2033年度（2023年10月現在）

第5期キャンパス整備

第6期キャンパス整備（2024～2033年度）

番号	件名	場所	エリア	構造・仕様	2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度	2029年度 令和11年度	2030年度 令和12年度	2031年度 令和13年度	2032年度 令和14年度	2033年度 令和15年度
【本山地区】															
1	4号館改修工事	現4号館	中段	RC造 地上4階	9月着工 10ヶ月 6月末竣工										
2	教室棟(人文社会系) 新築工事	13号館横敷地	中段	RC造 地下1階地上4階											
3	正門周辺整備	正門・守衛室周辺	下段	—											
4	新正門・守衛室整備	神山ホール北側	下段	—											
5	バス 1次 バスターミナル化工事 駐輪場工事 総合インフォメーションセンター新設工事	バスプール全体	下段	バスレーン6台 屋根付待合駐輪場											
					バスプール内	下段	S造地上2階1棟 RC造地上1階1棟								
6	バス 2次 ブリッジ架橋工事	鞍馬街道 (上空通路)	下段	車道幅(歩道兼用) 6m											
7	建物屋上太陽光パネル・ 雨水貯留再利用システム整備	—	全体	—											
8	急傾斜地対策工事	—	全体	—	工事対象:12~5号 館間,高蒲池南, 第6研究室棟南	工事対象:門衛所 南~三叉路北東	工事対象:4号館 東西,三叉路南東	工事対象: 10号館東~ 真理館東	工事対象: 並築館西						

【神山地区】

9	第3体育館新築工事	テニスコート	下段	S造 地上1階	5月着工 11ヶ月	3月末竣工									
10	太陽光パネル（コロシウム）	コロシウム	中段	—											
	太陽光パネル（総合体育館屋根）	総合体育館	中段	—											
	太陽光パネル（神山球技場北）	神山球技場	上段	—											
11	管理用通路整備	—	上段	—											

【神山第2地区・市原地区(仮称)】

12	スポーツ施設 (弓道場・アーチェリー場・射撃場)	市原地区(仮称)	—	—											
----	-----------------------------	----------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【本山第2地区】

13	本山寮新築工事	本山第2地区	—	RC造 地上3階	1月着工 13ヶ月	1月竣工									
----	---------	--------	---	-------------	--------------	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【総合グラウンド】

14	防球ネット整備(野球場)	総合グラウンド	上段	—											
15	太陽光パネル（陸上競技場観覧席）	総合グラウンド	上段	—											
16	陸上競技場人工芝化	総合グラウンド	上段	—											
17	五常寮建替工事	現五常寮	下段	—											

【第2グラウンド】

18	人工芝化整備	第2グラウンド	—	—											
----	--------	---------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--